平良 修氏 学長に再選さる

三月四日の理事会で、平良修氏の学長再任が決まった。

教育職員ならびにその他の専任職員による学長候補者第一次選挙は、二月九日に行われたが、川平朝清、金城重明、新見宏、平良修の四氏が学長候補適格者として選ばれた。

教育職員による第二次選挙は、二月二七日に行われたが、第一回投票において、平良修氏が投票総数の過半数を得て、学長候補者として理事会に推薦された。

その推薦をうけて開かれた理事会において現学長平良氏の再任が決定されたわけである。

同窓会雑感

「キリ短」の世代

十二期生　西銘 純子

「これからが大変です」と不安の色を少しのぞかせながらも、溢れる喜びがどうしようもないといった風な、卒業生のデリケートな心情をすかさずとらえて、我が同窓会々長は会のPRと会費の徴収に大奮闘であった。新卒の面々には昨日までほとんどその存在すら知られていなかった同窓会であるにもかかわらず、かなりの成果を収めたようである。しかし、ついつい、つられて花心……も大分いたのであろうか、当日の夕方催された「定期総会及び新会員歓迎会」には意外にも、主役はわずか三〇名出席という不盛況振りである。このような心許無い条件下ではあったが、ともかくも、十六期生を迎え入れた事に依り同窓会は総勢八六八名の会員を内包する事になった。

ということは、ここ四、五年の間に以前の約三倍に急増していることになる。思えば、かつてのキリスト教短大の最たる特色であった小数精鋭主義時代の教育を享受した先輩方が、仁々増えていく新世代の会員達をして、今後の会の活動力を期待し、「学院も発展した。これから益々、同窓生間の情報を密にし、親睦を深めながら学院のために微力ながらも役立ちたい」と大いに気をはいてから久しい。ところが、その場に居合わせていた〃期待された活動力〃たちは、胸中、実に複雑な思いが交さしていたのである。既に、「新世代」という当節通り一ぺんの言葉を使ったが最も具体的に表わすならば、いわゆる「キリ短」組と、片や、旧世代を「学院」組とでも呼ぼうか。この二つの世代は、時たま、役員会の中でも、その時代差を感じさせる意見を出し合う。では、何故に、「学院」であり、「キリ短」であるのか。この事に関して私見を述べる事を許して頂きたい。第一の要因は、言わずもがな、短大の正式な名称の変更である。一九六九年、「沖縄キリスト教学院短期大学」から、十二年に渡って呼び親しんできた「学院」を取り去り、「沖縄キリスト教短期大学」と改正したのである。OCIからOCJCへの移行である。しかし、それは、さしたる問題ではない。「学院」の持っている共同体的な自覚も、それはそれとして他に見られない「良さ」として存在していたが、しかし、激動する社会にあって、歴史的に物事をとらえていく事をしない「学院」の姿勢がそこにはあったと考えている。ここが別れの一本道であるはずだった。ところが、当時の在学生としては「キリ短」の名になじめない。経営主体である法人と、教育を司どる短大とに一線を画した事は結構な事であったし、「学院」の体質にひそむある種の否定的ムード、癒着性、秩序第一主義を批判しながら、「いいから、〃学院〃でいっちゃう」の

であった。これが十二期生である。その頃、既に全国的な勢いで波及していた大学闘争も山場を越していたが、当短大では、沖縄闘争との関連をもって、今までうっ積していた教育内容の充実化を要求し、その他諸々の問題を真向から学院にぶつけたのは十四期生が最初であった。生きるとは諸々の問いを燃えあがらせることだという。ここには意識の転換があった。彼らは「キリ短」と意志決定し、表示したのである。従って、「キリ短」の世代は、自己を自己として生きるべく解体のメスを握った者たちから始まったと考えている。

事務局より

一九七四年度人事報告

一、採用

渡久地政順氏、保育科専任講師
心理学担当

遠藤久江氏、保育科専任講師、社会福祉担当

二、長期研修

英語科外間恵子講師、静岡大学

三、帰任

保育科　喜友名静子講師

図書館だより

コピー・マシン遂に図書館に登場

待望の「コピーマシン（電子複写機）」が世界キリスト教協議会による援助の一環として、本短大に購入することができた。これは本短大の職員はもとより学生にとっても朗報といわねばならぬ。

現在、参考文献のノートテイキングで時間をさかれたり、読みたい文献が一つしかないためにその利用をうばわれている学生諸君にとって、コピーマシンは多大な貢献をなすであろう。すなわち、調べたい箇所や読みたい箇所をコピーして自分の学習に供することができるから。

図書館では、このコピーマシンの利用の仕方に関して「学術文献複写取扱内規」を定めてある。コピーを依頼しようとする学生（利用者）は、所定の申込書（図書館に備えてある）に必要な事項を記入の上、申込むこと。但し、文献複写は本短大図書館に収蔵する図書館資料に限る。

尚、コピーマシンの利用で疑問のある方は、遠慮なく図書館職員にたずねて下さい。

（編集後記）

この一年間の学報の編集（五号―七号）の責任を無事果すことが出来てホッとしている。編集技術にも一段と進歩が見られると思っているが、その為に編集っ子の外間書記と西銘和子さんの大きな貢献があった。学内の状況や同窓会の動き等を知らせる事に大きなポイントを置いた初期の目的は、或程度果せたかと思う。然し住所不明の為、送れない同窓生が相当数いる。第六号に各期の代表者氏名と連絡先を載せてあるので是非お知らせを。

（S・K）

沖縄 キリスト教短期大学報

那覇市首里当蔵町 3―6―1
沖縄キリスト教短期大学
電話 32―5161
発行人　平良　修
編集人　学報編集委員会
印刷所　協栄印刷株式会社
電話 33―4853

新しい仲間を歓迎するの辞

学長 平良 修

沖縄キリスト教短期大学は二〇六名の新しい学友を心から歓迎する。私事で恐縮だが、私の家に二番目の子が誕生したとき、妻の母親は「あなたたち夫婦にとっては二回目の出産ではあっても、生まれてくる子にとっては最初の一回限りの誕生であることをくれぐれも忘れないように」と言ってよこしてくれた。深い感動をもってこの助言を憶えている。私は、そのときの同じ緊張を持って諸君を迎える。本短大にとって諸君は十八回目の入学生である。しかし、諸君にとっては最初の一回限りの体験であることを、私は全学と共に肝に銘じていたい。そして、諸君が私たちとの共同生活の中から自分の人生の意味を、たとえその片鱗でも見出していくように手伝いたいと願っている。

諸君は高等学校又はその他の生活の場から、次のステップとして本短大を選んだ。中には、第一志望校への希望が通らずここに来た人もいる。はっきりした目標もないまま入学した人も、あるいはいるかも知れない。しかし、いずれにしても、私は諸君が腰を据えて二ケ年間を生活してほしいと強く希望する。その為には、入学の動機如何によらず、この短大をしっかり主体的に選び取らなければならない。その決断のない者は、結局、本短大の生活を愛し、大切にし、これを楽しむことができなくなるだろうことを私は明言しておく。主体的に選択してはじめて、そのものを愛することができるのだし、愛する心があってこそ、そのものを大切にすることもできるからである。何事にもせよ、心をこめて打ち込む一途さなくして価値あるものを期待することは許されない。私たちは、ここで学びたいという諸君を多数の希望者の中から選び取った。諸君も、今日から始まる新しい生活を繰り返し選び取り続けてもらいたい。

沖縄キリスト教短期大学はキリスト教精神による教育を目指して、一九五七年、当時の沖縄キリスト教団（現・日本キリスト教団沖縄教区）によって創立された。

キリスト教精神とは全生活が神と隣人に対して開かれている生き方のことである。絶対者なる神に対して開かれた生は、あらゆるものを相対化することができる。イデオロギー、社会体制、思想、権力。そして人間の最後の敵である罪と死。その他あらゆる束縛から解放される。神の呼びかけに応答すべく、古いものを乗り越え、絶えず新しいものを生み出す自由さを保障される。本短大は、そういう人間の在り方を追求し実現する為に存在している。私たちは、安住をむさぼろうとするみずからの保守性と対決しながら、常に新くし自己を変革していく開拓者であることを求める。本短大はそういう共同体になろうと努める教育の場である。

人生は何時でも何処でも、なんらかのきびしい制約の中で生きる他はない。もし人が、自由を信奉するあまり、なんの制約もない世界で生きることをもって真の生き甲斐と考えるならば、それは幻想でしかない。人は二重三重の制約の中で生きるしかないのである。要はその限界の中でどう生きるかということである。諸君は、高校時代の、制服という名の反個性的服装生活から解放された。しかし同時に、沖縄キリスト教短期大学という新しい制約の中に身を置くことになった。この制約と取り組んで、限界に挑戦していくたくましい生き方を是非追求してもらいたい。そしてその取り組みの中から、人間社会全般の限界そのものを変えていく実力と方向性を身につけていってもらいたい。自己変革性を求めるキリスト教主義の本短大において生活する学生の姿勢は、そういうものであらねばならない。

キリスト教主義の意味するいま一つの点、つまり、隣人に対して開かれた在り方とは、他者の幸福に役立ち、他者と共に生きようとする在り方である。したがって本短大は、どう在ることが真に人間の為になるのかというテーマと取り組む課題をその使命として負っている。諸君もこの決定的に重大なテーマを共に負うべく招かれているのである。本短大は、自己中心的な生き方から絶えず解放され小市民的マイホーム主義を拒否し、人間を非人間化する如何なる勢力にも対決していくことのできる人間の形成を目指す。私たちは、自己認識、状況認識が乏しく、どういう社会状況にも無批判にすんなり同化できるような、悪しき処世術に長けた人間を最も軽蔑する。本短大での学びは、人間を限りなく大事にする為に、本当のことが見え、本当のことが言える人間を造ることに何時でも向けられていなければならないのである。

諸君は本短大に学びに来た。学ぶ権利を最大限に行使してもらいたい。諸君には又、学ぶ義務がある。その義務をも最も真摯に果してもらいたい。諸君が自分の責任を負い抜く主体的な生き方に徹し、その自覚に立って学ぶことに打ち込むなら、他のことは好きなようにやればよい。諸君はもはや子供ではない。私は諸君を、大いに期待してよい私の仲間として、敬意をこめて歓迎する。前途に神の祝福を祈りつつ。

新任教師紹介

保育科　久野真智子

遠藤久江講師

この三月、明治学院大学大学院の社会学研究科を卒業された遠藤先生を四月より当短大の保育科専任講師としてお迎えすることになりました。先生には社会福祉関係の専任担当者になっていただき活躍されることを期待しています。先生は北海道遠軽の御出身ですが、現在は横浜に御家族と一緒にお住まいです。先生は明治学院を卒業なさる前は、桜美林短大英文科、そして日本社会事業大学へと進学され、卒業後は東京都私立保育園連盟や東京ＹＷＣＡの社会福祉科の講師として数年間働かれました。特に私立保育園連盟時代は、沖縄の私立保育園との関係も深く沖縄にも幾度かおいでになり、多くの友人があるとの事です。今後の幅広い活躍が期待されております。

渡久地政順講師

先生は、この春迄語学センターの所長として活躍しておりましたが、この度当短大で心理学関係の科目を担当していただくことになりました。先生の今迄の御仕事は全て英語関係でしたが、以前より心理学にたいそう興味を持たれ、又研究もなさっていたようです。先生はペンシルバニヤ州テンプル大学及びハワイ大学大学院において教育学と教育心理学を専攻。ハワイ大学時代はカウンセリングも専攻科目として終了しており、心理学はもとより将来カウンセリングの分野においても大いに活躍していただけるものと期待している次第です。なお、先生は昨年一年間、当短大で非常勤講師として教育心理学を教えていただきました。それで特にカウンセリングの面においても実際的活動をどの様に展開していくか、その計画は先生御自身にも出来ている様です。

右のお二人は保育科が待ち望んでいた先生方です。これで保育科の専門分野における専任講師がいくらか揃った訳です。でもまだまだ充分とは言い切れえませんので、今後とも専任教師の増員及び科の内容の充実と発展に一層の努力をしたいと考えております。

宗教委員会報告

新しい宗教委員会は、五名の教育職員を以て組織し、実務には事務職員一名が当る事になった。学生を外したのは出席が困難な為である。本委員会の主なる業務は、礼拝と木曜集会の企画実行、及び学生の自主的宗教活動の指導助言等である。礼拝は従来月曜日のお昼休みに行っていたが、本短大創立の精神に関わる大切なプログラムである為、午前十時二〇分より五〇分までとし、従来の水曜集会は、諸般の事情で**木曜集会**として三、四時限に移すことになった。学生の積極的参加を望む。毎月第二、第四木曜日。（金城）

一九七四年度の特色ある行事

※

一、新入生オリエンテーション・キャンプ

このキャンプで、本短大の英語科・保育科の教育の特色、方針等について各科を中心に話し合う。新入生は小グループに分れて、科の教師たちと専門領域の諸問題について意見交換をする。

さらに学長講演を通して大学とは何か、キリスト教主義等について深い理解を得ることになろう。そして大学生としての自覚を強め、探求精神をいよいよ高めていくことでしょう。

二、ＯＣＪＣキャンプ

今年は希望者だけで全日程を企画し実行する。科や年次のワクをはずし、教師・学生のカラをすててはだかの人間として語り合う自由の時だ。キャンプ中の多野岳登りは若さのバロメーターでもある。六十の坂をはるかに通り越した小橋川教授は毎年この登山に参加なされ、先頭で指揮をとられることは周知の事実。ところで、ハウオールドアーユー？

三、スポーツ・デー

全学の学生・教師・職員が若いエネルギーをぶっつけあう時である。「健全なる精神は、健全なる身体に宿る」ことを忘れてはいないな、諸君！十月が待ち遠しいなその日のために身体を鍛えておこう。

学　年　暦　（1974年度）

※　前　　期

4月1日（月）	健康検査	
3日（水）	2年次登録	
4日（木）	1年次オリエンテーション・登録	
8日（月）	講義開始	
9日（火）	開学記念日（ピクニック）	
19日（金）	単位登録調整締切日	
4月30日（火）～5月2日（木）	1年次オリエンテーション キャンプ（各科1泊2日）	
5月2日（木）	交通訓練（保2）	
6月28日（金）	講義終了	
7月1日～8月31日	夏季休業	

休業中の実習等

6月29日（土）～7月10日（水）	幼稚園実習（保2）
7月1日（月）・2日（火）	月曜日の為の補講期間
7月8日（月）・9日（火）	水泳実習・救急法（保1）
7月18日（木）～7月31日（水）	保育実習（保2）
7月18日（木）～7月31日（水）	施設実習（保1）
8月29日（木）～8月31日（土）	ＯＣＪＣキャンプ

9月2日（月）	講義再開
24（火）～30日（月）	前期末テスト
30日（月）	教育実習生登録（両科）

※　後　　期

10月1日（火）～10月13日（日）	秋季休業期間
10月1日（火）	2年次登録
2日（水）	1年次登録
10月1日（火）～10月15日（火）	英語科教育実習
10月1日（火）～10月12日（土）	幼稚園実習（保2）
14日（月）	講義開始
21日（月）	単位登録調整締切日
29日（火）	第1回短大スポーツデー
11月22日（金）～11月25日（月）	第10回　学院祭
12月19日（木）	全学クリスマス祝会
12月22日～1975年1月5日（日）	冬季休業
1月6日（月）	講義再開
2月10日（月）	講義終了
2月12日（水）～2月18日（火）	学期末テスト
2月23日（日）～3月31日（月）	春季休業
2月28日（金）	卒業生判定会議
3月1日（土）	卒業生名発表
6日（木）	卒業式リハーサル
7日（金）	第17回卒業式午前10時

巣立ちゆく時

本短大は、去る三月九日第十六回卒業式を挙行し、一六三名の若人を世に送り出した。その内訳は英語科九二名（男子一名）、保育科七一名である。本年は保育科の福里充枝さんに卒業生を代表して答辞を述べてもらった。

答　辞

第十六期卒業生　福里充枝

本日は、私達のために、このような心のこもった卒業式をおあげくださいまして誠にありがとうございます。

私達が本短大の学風を慕い希望と感激に胸ふくらませて校門をくぐりましてから早くも二年の月日がながれました。今や思い出の学び舎を去らんとするに当たり感激さらにあらたにして別離の情禁じえないものがあります。

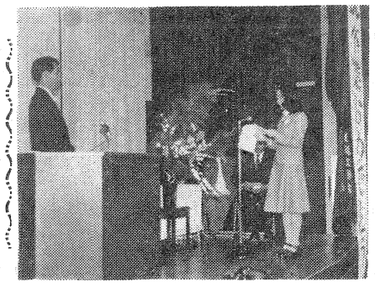
私達が本短大で勉学いたしました二年間は、かえりみまして必ずしも安穏な時代ではありませんでした。めまぐるしいまでの世界情勢の変転、国家間のけわしい対立、平和への理想をあざわらうかのような戦乱の継続、世界的石油危機等、それらの現実は私達の日常生活にまで波紋を及ぼし静かなるべき学園がそれらの騒音に包まれていた期間も短くはなかったのであります。又、国内における政情や国民生活に関する諸問題、軍備や外交論議など、私達学生にとって無関心でいられない事柄があまりにも多くそれらの問題解決なくして私達が専門教科の研究を続けることは無意義ではないかと考えさせられたこともしばしばありました。

そうした私達を常に理解ある態度でお導きくださった学長はじめ諸先生の御高恩は、終生忘れえないものであります。先生方の御教導がなかったなら、おそらく私達が今日短期大学の課程を終了して卒業の喜びを共にすることもできなかったかも知れません。私達は本短大で、高遠なる理想をかかげることはできましても現在に最善を尽すということはなかなか困難な事でありました。しかし、私達はその困難を克服することと取り組んだがゆえに学生としての本分をあやまることなく今日を迎えることができたのだと思います。そして、この教えは、私達が人生の終りを告げる日まで、絶えず私どもの怠慢を戒め、今後の人生を保証すると共に常に希望を与えてくれるものと確信いたしております。私達はきょう、この短大を去ります。明日からはお慕いする諸先生のお教えをうけることなく、後輩の皆さんと一緒に今までどおりこのなつかしい短大で研究することもきわめてまれなことと考えなければなりません。卒業の嬉しさより、今はこのことのさびしさが私達の心を占めております。

しかし、お別れはしましても、この短大は私達の母校であります。同窓生として今後ともかわらぬご交情をよろしくお願い致します。学長をはじめ、諸先生におきましては、御身をおいといくださいまして母校の為、後輩の為、そして私達の将来につきましてもご指導下さいますようお願い申し上げます。

過ぎし日のなつかしい思い出を追いはるかなる行く手を望みつつ万感こもごも湧き言葉はなかなかつきそうもございません。

最後に愛する母校のご繁栄をお祈り致しつつ卒業生一同の答辞とさせていただきます。



研修を終えて

保育科　喜友名静子

ただいま！帰ってまいりました。皆様のおかげで金沢大学での研修を無事に務めさせていただきました。有り難度うございました。

まだ金沢生活の延長線上にいるようで、一年間も沖縄を留守にしていたという事実が嘘のようです。しかし、五八号線沿いの様子の変貌ぶりには、いやがうえにも一年間の空白を感じさせられます。

去年の四月、金沢駅に降り立った時、みぞれの降る寒い日だったように覚えています。「弁当忘れても傘忘れるな」と言われる程に雨の多い金沢でした。初めの頃は傘を忘れて弁当をしっかり抱いて登校し、よく濡れたものです。

さて、私のクラスは十二名で、内、男九名、女三名でした。青森、新潟、岩手、石川と東北の方が多くを占めていました。近くで耳にする東北弁に言葉の地域差を考え、また言葉と環境（気候）のつながりを観察する素晴しい機会だったと思います。

ところが、快よく響くはずの金沢弁も理解するまでには時間がかかりました。

「もしもし、喜友名でございますが……。」

「あほか」

電話で用件をつげると「阿呆か」と言う。別に失礼になるようなことを言った覚えはないのに、開口一番人を「阿呆」呼ばわりするとは失礼な方だ！しかし、話を進めていくと「あほか」「あほけ」という言葉が端々にでてくる。どうも「阿呆」ではなく「そうですか」という意味のようです。

美しく装う加賀美人の口もとから、初対面に「あほか」と言われれば誰れでもギョッとするであろう。恋せずして失恋することもあり得ることになる。

毎朝、愛想よく「おはようございます」と呼びかけると「ひとりではお愛想ないでしょう」との返事。この凍りつくような寒さの中で、こんなにも愛想よく方の微笑をたたえて挨拶しているのに、お愛想もないと言われると理解に窮する。後でわかったことは、「ひとりじゃつまんないわね」と言う意味も含まれているという。全くそのとうりです。ひとりの生活なんて、お愛想ないわ……。

「喜友名さん……」

「あほか」

「次の日曜日ね」

「あほけ」

素直に「あほ」が出るようになった。

言語障害児教育が、その地域の音声言語を無視しては成り立たないことを考えると、方言も重要な存在となります。そして、今後、接することが少ないであろう多くの地方の方言に触れることができたことも研修生活でのおもわぬ収穫であったと思います。私にとっては、生きた教材でした。

一年足らずの短かい金沢生活ではあったが、時間では換算することができない程に多くの人々と密なる結びつきを持つことができたと思っています。また、真に金沢に生かされたと思っています。

一年間の研修の成果を言語障害児教育の臨床の場の中で役立てたいと思っております。